

世界に誇り、
未来へ伝える。

水戸城跡(第5地点・第6地点)現地説明会資料

第6地点

第5地点

2008

財団法人茨城県教育財団

水戸市教育委員会

1. はじめに

御三家・水戸徳川家のお膝元であった水戸には、水戸城跡、弘道館、偕楽園、笠原水道、七面製陶所しちめんせいとうじょ跡、あと 罫裏窯跡、かこえうらかまあと 日新塾跡にっしんじゅくあとなど、多くの江戸時代の遺跡が残っています。

とりわけ水戸徳川家の居城であった水戸城跡では、平成17年からわずか4年間で17回の発掘調査こうじたちあい（工事立会なども含む）が実施され、多くの新事実が発見されてきています。

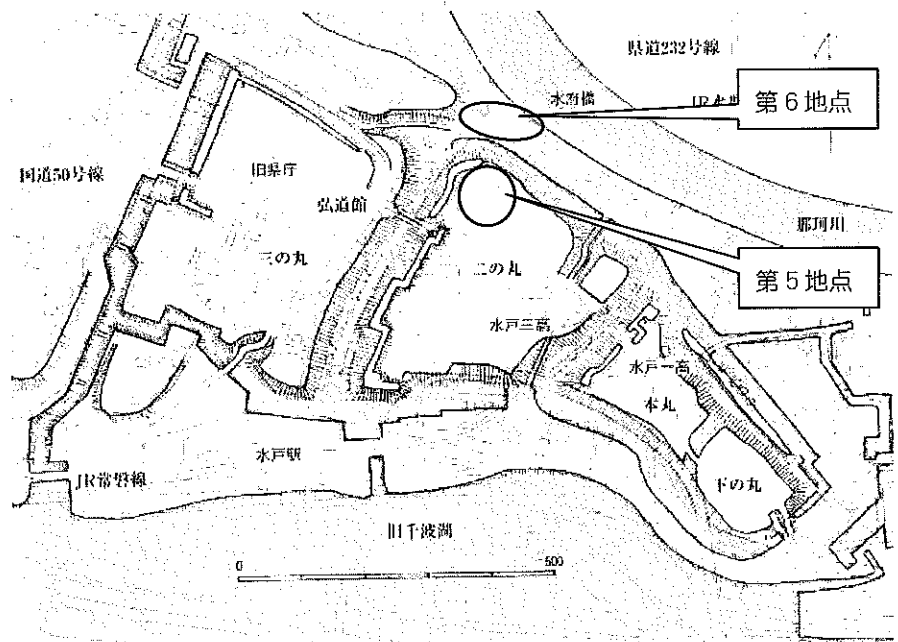
今回調査した水戸城跡第5地点と第6地点は、水戸城跡の調査のなかで、本格的な発掘調査を実施した数少ない事例です。第5地点は水戸城二の丸跡（曲輪くるわ）の調査、第6地点は水戸城の堀跡の調査をしており、それぞれ性格は異なりますが、くしくも「曲輪」と「堀」という、城郭を構成する2大要素が同時期に姿をあらわす機会に恵まれました。

2. 水戸城の立地と構造

水戸藩の居城である水戸城は、那珂川と千波湖にはさまれた、東西に長い馬の背状の台地（上市台地）の東端に位置しています。北側は那珂川、南側は千波湖、東側は湿地帯であり、自然の要害をなしていました。

主郭部しゅかくぶの範囲は東西1200m、南北500mと広大で、ここに本丸・二の丸・三の丸・東二の丸（別名下の丸）の4つの曲輪が設けられました。城下町うわいちは上市しもしろと下市の2つに分けられ、それぞれ複数の堀と土塁が廻らされ、惣構そうがまえを構築していました。

現在、本丸跡・下の丸跡は水戸第一高等学校、二の丸跡が水戸第三高等学校・水戸第二中学校・茨城大学付属小学校の敷地になっています。また三の丸跡は現在、弘道館のほか茨城県庁分庁舎・水戸警察署・三の丸小学校などの公共施設が建ち並んでいますが、当時は全域が弘道館の敷地でした。また城下町に設けられた惣構については、部分的ではありますが現存しており、往時の広大な城域を偲ばせています。



水戸城推定縄張図

〔茨城城郭研究会編 2006 『図説茨城の城郭』 国書刊行会 を一部改変〕

3. 水戸城の歴史

《馬場氏時代》 水戸城の成立は中世初頭に遡ります。近世の地誌によれば、水戸城の地に最初に拠を構えたのは、常陸平氏の惣領・馬場資幹です。資幹の10人の子供たちは水戸付近に根を下ろし、在地支配を確実なものにしていきました。

《江戸氏時代》 応永23年(1426)、水戸城主馬場大掾満幹が一族家臣を伴い府中石岡に赴いていた際に、那珂川東岸の下江戸を本拠としていた土豪・江戸通房による水戸城占拠事件が起こりました。以後、水戸城は約160年間にわたり江戸氏7代の居城となりました。

江戸氏時代の水戸城は、本丸部分を「内城」、二の丸部分を「宿城」と称していました。内城には居館を、宿城には商人や職人を集めて宿を形成させる一方、有力家臣の居館を配置し、水戸城の外郭となしていたと伝えられています。

《佐竹氏時代》 天正18年(1590)、豊臣政権下の大名となった佐竹義宣が、新しい領国経営の拠点として水戸城を望み、武力による進攻を行いました。水戸城はまたたく間に落城し、城主江戸重通を敗走させました。これにより水戸城は佐竹54万石の居城となったのです。

義宣は文禄2年(1593)より、水戸城の大改修を積極的に実施しました。城の外郭の土塁と堀を修築し、本丸・二の丸・三の丸・下の丸の4つの曲輪を整備したほか、江戸氏時代には武家地と町人地が渾然一体であった宿城も整備し、町人地は城郭から完全に分離したとされています。

《徳川氏時代》 慶長7年(1602)5月、徳川家康は佐竹義宣に対し、突如秋田への移封を命じました。佐竹氏の後、武田信吉(家康第5男)・徳川頼宣(家康第10男)が相次いで水戸城主となり、慶長14(1609)年に藩主となったのが、家康第11男の徳川頼房です。この頼房を初代として、水戸藩(35万石)は徳川御三家の一家に列し、明治に至りました。

水戸城の建設と城下町の開設は初代頼房、二代光圀の治世に積極的に実施されたとされています。とりわけ頼房による寛永2(1625)～寛永15(1638)年頃までの修築は大がかりなものでした。内郭については、佐竹氏時代の二の丸を本城とし、二の丸御殿および天守としての三階櫓を建造しました。また三の丸と二の丸の間に大手門を、南西の崖上に2つの角櫓をそれぞれ建設しました。

元禄11(1698)年には『大日本史』の編纂所として、水戸彰考館が二の丸の北西(現第4地点)に設置されました。本丸・下の丸は蔵を配し、居住区としての建物はありませんでした。また三の丸は重臣の屋敷地でしたが、天保12(1841)年にすべて移転となり、藩校弘道館が建設されました。

なお水戸城は当初より石垣構築の計画はあったものの、諸事情により実現されず、すべて土塁と堀によって構築されています。

(文責：水戸市教育委員会事務局)

4. 水戸城跡(第5地点)発掘調査の概要

調査地域	水戸市三の丸2丁目9-22	調査支援	大成エンジニアリング株式会社
調査面積	第1期調査：2、250㎡ 第2期調査：3、571㎡	調査期間	第1期：平成18年8月16日～12月2日 第2期：平成20年8月29日～
調査主体	水戸市教育委員会		

(1) 調査の目的

今回の調査は、水戸市立第二中学校の全面改築工事に伴う、記録保存を目的とした発掘調査です。学校改築工事の計画にあわせて、これまで2回の発掘調査（第1期調査・第2期調査）が実施されました。

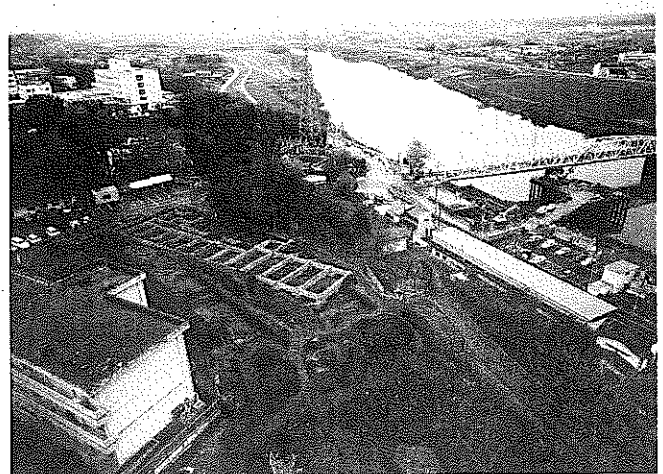
(2) 第1期調査の成果

遺構は古墳時代から奈良・平安時代、室町時代から安土・桃山時代、江戸時代、明治・大正・昭和時代まで確認され、この地に連続と歴史が受け継がれてきたことが確認されました。それも地域にとって最重要な遺構群で占められていることを、改めて追認することになりました。

主な遺構は古墳時代前期の住居跡2軒、古墳時代中期の住居跡2軒、奈良時代の住居跡2軒、平安時代の住居跡2軒、室町時代から安土・桃山時代の溝（堀）跡8条、土坑多数・小穴多数、江戸時代の地下室・整地層などを確認しました。

特に室町～安土・桃山時代の遺構が発見されたことは予想外の成果でした。これまで往時のことを知るための史料は江戸時代に作成されたものが中心で、同時代の資料がぎわめて少ない状況にありました。そのようななか、第1期調査で発見された遺構は同時代資料そのものであり、当時の生の歴史を示す物証として貴重な発見といえます。

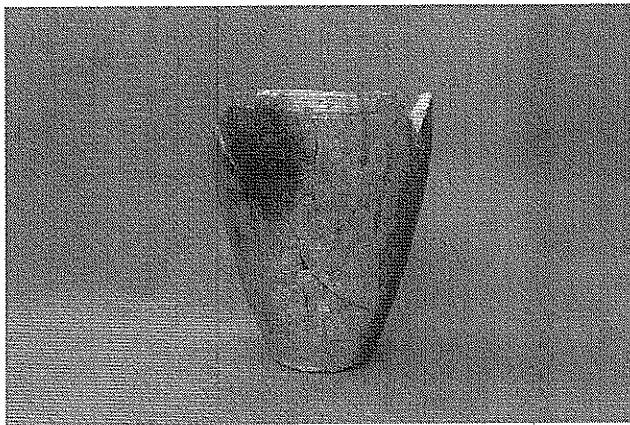
遺物も縄文時代早期・前期・中期の縄文土器、古墳時代の土師器・埴輪、奈良時代の土師器・須恵器、平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器、鎌倉時代の常滑焼・瀬戸焼、室町時代の常滑焼・瀬戸焼・瓦質土器・カワラケ、安土・桃山時代の瀬戸焼・美濃焼・カワラケ、江戸時代の瀬戸焼・美



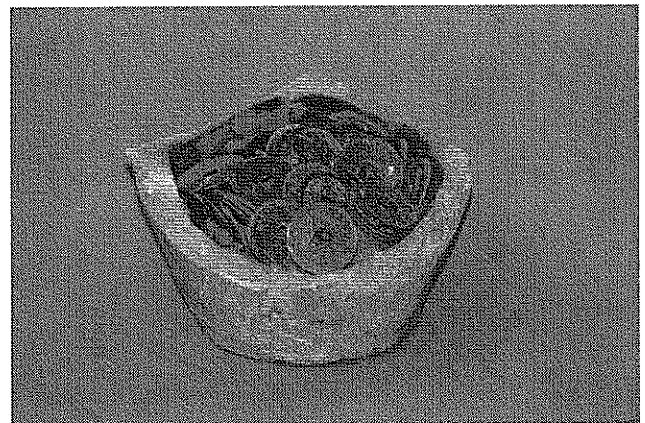
第1期調査区全景（東から）

濃焼・肥前磁器・唐津焼・カワラケ・瓦質土器・瓦・^{はくさい}船載陶磁器(明染付・^{みんそめつけ}李朝黄釉陶器・^{りちやうおうゆうとうき}華南瑠璃釉陶器)、
 在地産の^{まつおかやま}松岡焼・^{まちだやま}町田焼・^{しちめんやま}七面焼、明治時代の^{れんが}煉瓦・陶磁器・瓦・石瓦、大正時代から昭和20年以前
 の陶磁器・瓦、昭和20年以降の陶磁器・^{すずり}硯・^{まぞう}インク瓶・^{まぞう}塑像などが出土しています。

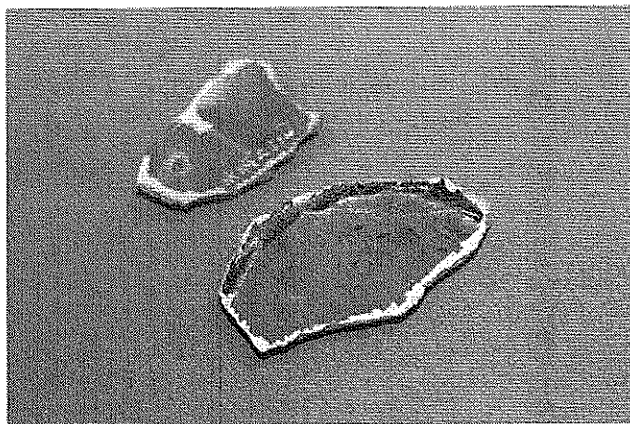
特筆すべき遺物としては、13世紀末の^{こせと}古瀬戸の^{へいし}瓶子に納められた、1,300枚を超える古銭があげられます。元位置を保ってはいませんが、地鎮のための埋納と推定されます。中世の水戸城普請の跡を示す重要な遺物です。



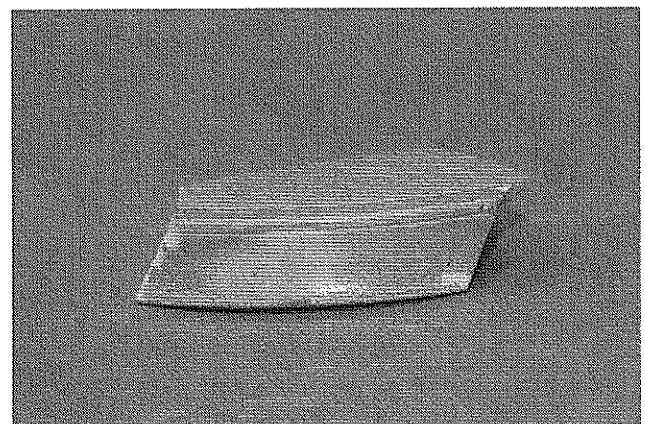
古瀬戸瓶子



埋納銭



瑠璃釉陶器 (華南)



黄釉陶器 (李朝)

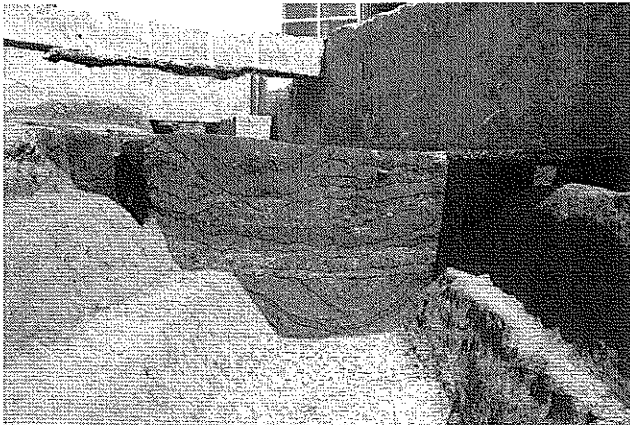
(3) 第2期調査の成果

現在、調査範囲の3分の2ほどを終了した状況ですが、第1期調査同様、多くの遺構が検出されています。主な遺構は住居跡7軒、溝(堀)10条、中世土坑15基、近世土坑13基、近代土坑26基、小穴343口、井戸3基を確認しました。溝(堀)跡は1次調査の溝(堀)と連結するものもあると想定されましたが、屈曲することも考えて別に遺構名をつけました。3号溝は10号溝と8号溝は11号溝と連結しています。

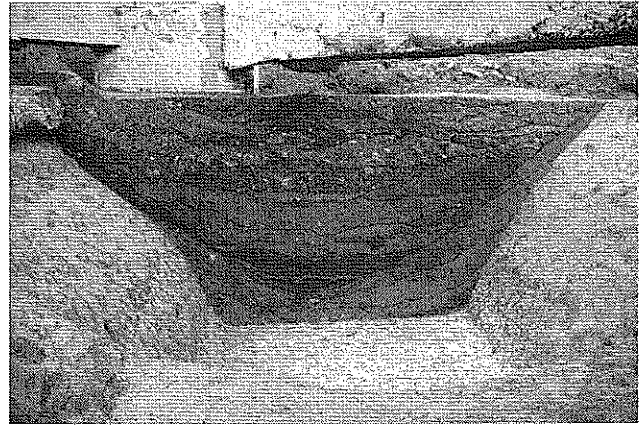
これらの溝（堀）のなかには底面に段をつけているものがみられます。これは「障子堀」と呼ばれ、敵が城内へ侵入することを防ぐための障害を設ける技法です。

遺物も第1期調査と同時代、同種類の土器・須恵器・陶磁器・瓦などが出土しています。今回の調査で特筆されるのは、彰考館の屋根に葺かれていた瓦が17号溝から大量に出土したことです。彰考館の礎石は後世の土地利用により失われてしまったと考えられますが、大量の瓦は失われた彰考館を補完する物証です。総量は数万点に及び、重要文化財に指定されている弘道館正庁の棟飾瓦むなかざりがわらと同一の瓦もみられます。当時の彰考館の姿を彷彿ほうふつとさせる資料です。

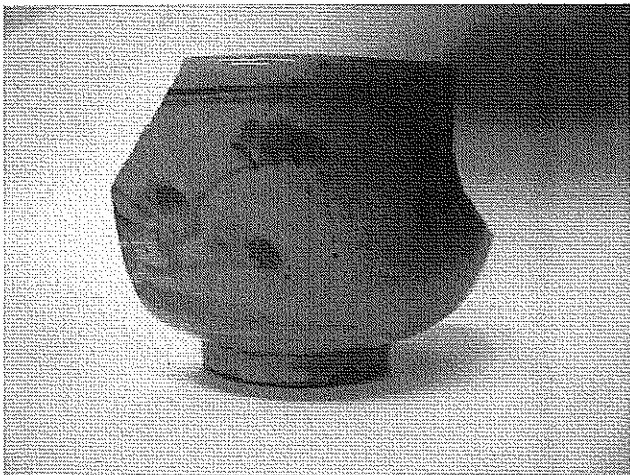
また、古墳時代の刀子形石製模造品、江戸時代の町田焼・七面焼なども出土しています。



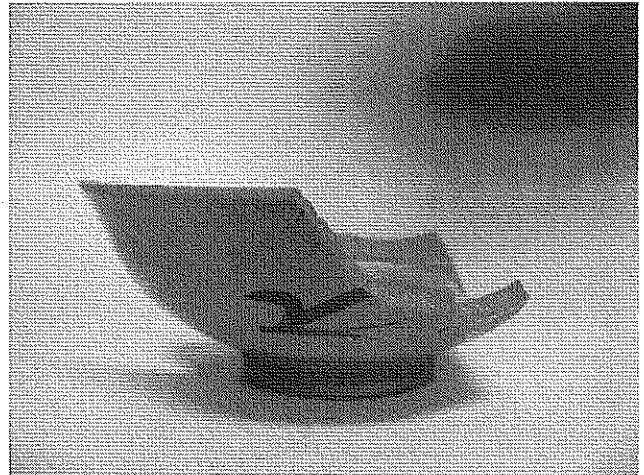
11号溝（堀）



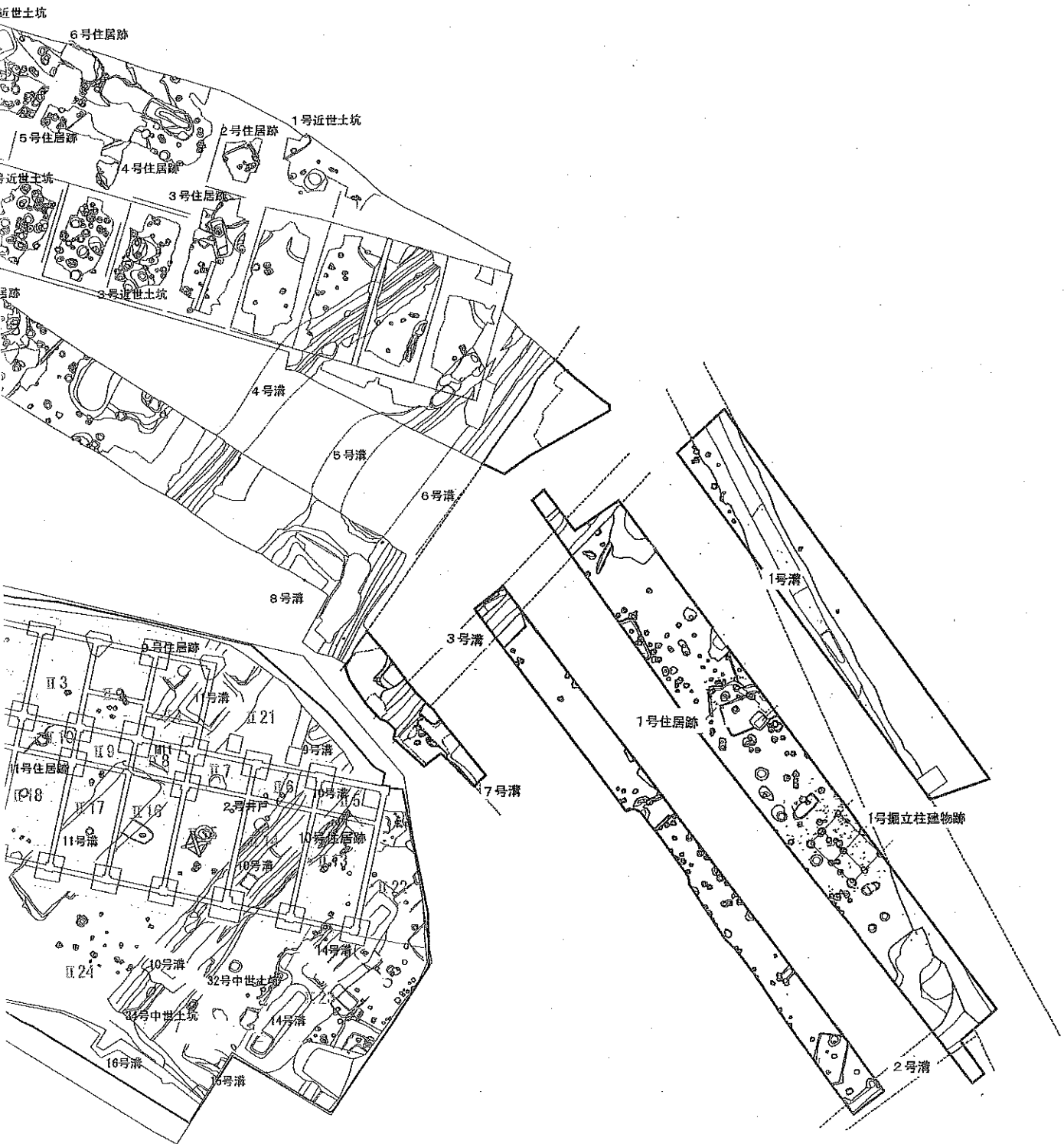
10号溝（堀）



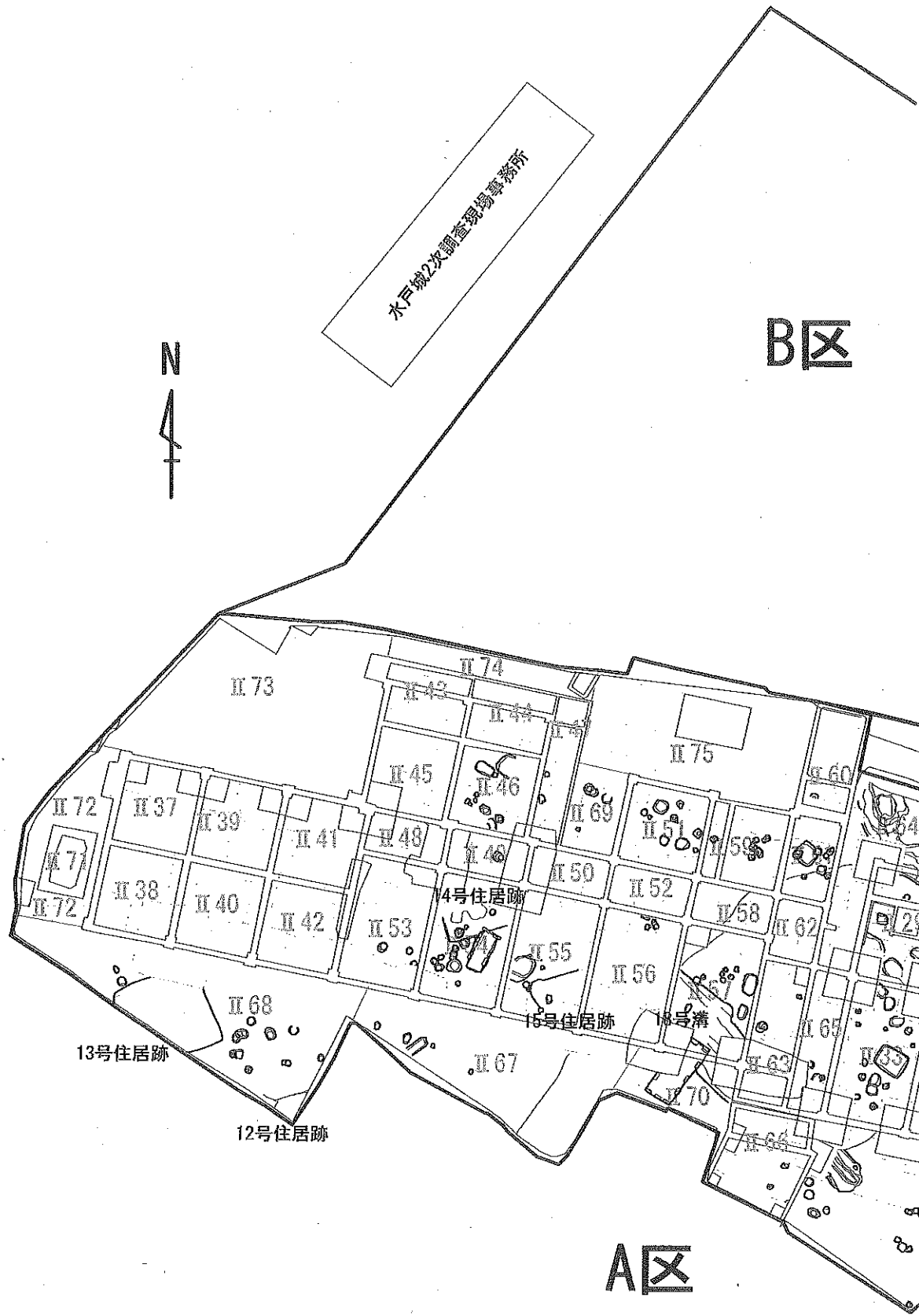
町田焼（陶胎染付草花文丸碗）



七面焼（染付草花文端反碗）



(2008. 11. 06現在)



水戸城2次調査 遺構平面図

(4) まとめ

今回の2期にわたる調査により、旧水戸城の地の知られざる歴史が明らかになってきました。

この地に最初に集落が形成されたのは古墳時代前期から中期と想定されます。元位置を保っていないものの、刀子形石製模造品など特徴的な遺物も出土しました。その後、奈良・平安時代にも小規模な集落が営まれていたことが確認されています。

この地が大きな変革を遂げるのは室町時代中頃です。この時期には4mの盛土を伴う大がかりな普請が行われたとみられます。第1期調査で発見された1,300枚の古銭は、この普請に伴う土地神への奉饗銭ほうさいせんだったと思われます。この普請が行われた時、水戸城の城主は江戸氏でした。記録では江戸氏が最初に二の丸(宿城)の整備をしたとされていますので、今回の発掘調査結果と一致する点もありますが、その普請が想像以上に大規模であったことが窺えます。

その後、徳川氏の入城によって寛永年間に二の丸の築城が行われたものと推定されます。第5地点は旧水戸彰考館の跡地であることから、彰考館の礎石など、建物跡の発見が期待されましたが、当時の遺構の残りはさほど良好ではありませんでした。しかし数万点を超す瓦など、彰考館に直結する遺物が相当数出土しています。細かい分析は今後の課題ですが、彰考館の位置や外観を窺う重要な資料になりそうです。

また、明治時代から昭和に至る近現代の遺物も多く出土しています。水戸彰考館と水戸第二中学校という、江戸時代と現代の学問・教育施設の間の歴史をつなぐ興味深い資料といえるでしょう。

(文責：水戸市教育委員会事務局・大成エンジニアリング株式会社)

MEMO

5. 水戸城跡(第6地点)発掘調査の概要

調査地域 水戸市三の丸2丁目1-274 ほか

調査機関 財団法人茨城県教育財団

調査面積 566 m²

調査期間 平成20年10月1日～12月26日

事業主体 茨城県水戸土木事務所

(1)調査の目的

一般県道市毛水戸線道路改良事業に伴う、記録保存を目的とした発掘調査です。

(2)調査の概要

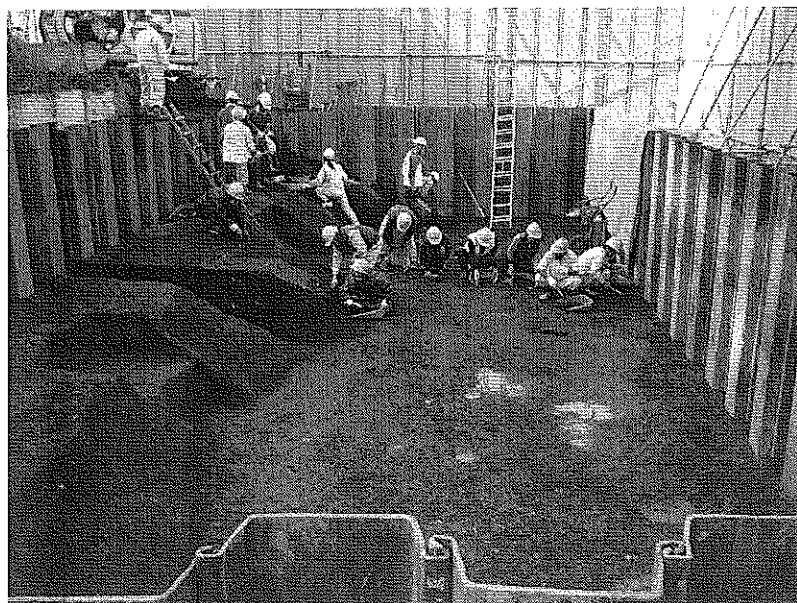
①調査地点

調査地点は、水府橋のたもと、那珂川右岸の標高10～14mの^{かがんだんきゅう}河岸段丘上に位置し、水戸城跡の二の丸の北西コーナー部にあたります。調査範囲には、二の丸（今回調査している第5地点の面）から1段低くなった平坦面（現在水戸第二中学校の弓道場・テニスコートのある部分）及び二の丸と三の丸を画する堀の一部が含まれています。

②これまでの調査成果

まず、平坦面の調査を行いました。残念ながらテニスコートの造成等による削平が著しく、水戸城跡に関連する遺構は見つかりませんでした。そのため、この平坦面の性格や構築された時期等は明らかにはできませんでした。

次に、堀跡ですが、水戸城跡については、これまで三の丸の土塁及び堀の復旧工事に伴う試掘調査や県道改良工事に伴う二の丸北西隅^{のりめん}法面の立会調査により、土塁や法面の断面構造が確認されています。しかし、面的に堀跡の内部が調査されるのは今回が初めてです。調査の目的は、堀の形状や機能、埋没状況を把握することでしたが、法面部分が^{はたらく}版築状に構築されていることが判明したこ



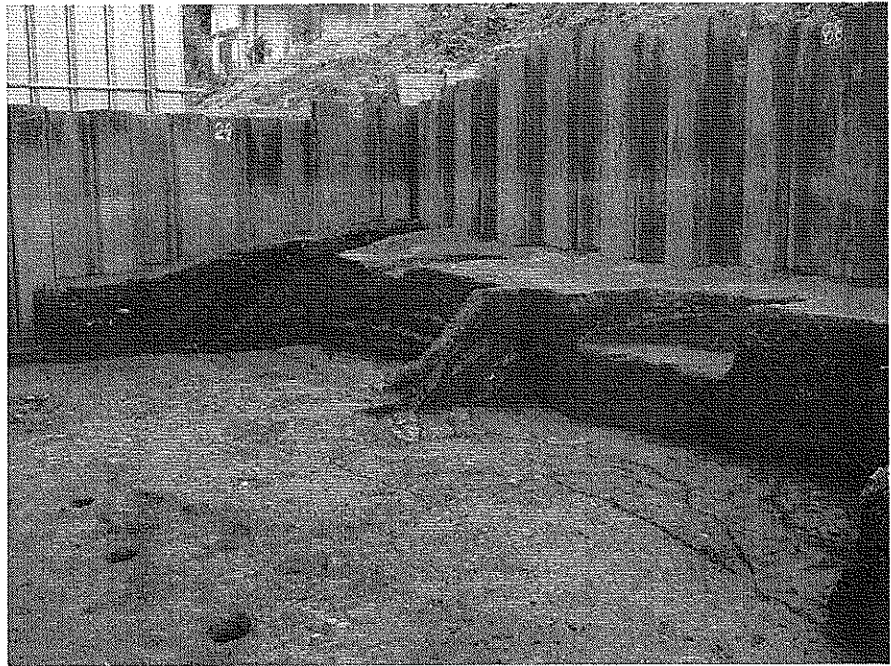
堀の調査

とから、堀の構築過程や築造時期の解明も新たな課題となっています。

現時点での調査成果としては、以下の点があげられます。

ア 調査区北西部において、堀跡のコーナー部が確認されました。

イ 現代の造成土を除去すると厚さ1m以上の炭や灰の層が検出されました。第2次世界大戦の



堀の版築状土層

水戸空襲で焦土となった市街地の廃材等が集積されたものと考えられます。したがって、堀が現在の地表面の高さまで埋没した時期は、第2次大戦直後であることが明らかになりました。

ウ 堀の法面が粘土や土、砂を交互に積み上げた版築状に構築されていることが判明し、城の法面工が堀内部まで及んでいることが明らかになりました。

エ 法面の土層の観察から、法面工事の水平方向の構築手順が明らかになりました。法面の構築はコーナー部を起点に始まっています。さらに、版築状に積み上げた部分と粗積みした部分とが交互に現れ、当時の作業工程をうかがい知ることができます。

(3) おわりに

水戸城跡は、中世から近世を通じて馬場氏・江戸氏・佐竹氏・水戸徳川家の居城として、常陸國の中で中心的な位置を占めてきた重要な史跡です。しかし、旧景観をうかがう資料は数少ない絵図や文献に限られており、今回の調査は、水戸城の歴史の一端を知り得る貴重な機会といえます。

今後は、堀のコーナー部の形状や法面の工法の復元、また、その構築時期の解明等を目指して調査を進めていきます。

(文責：財団法人茨城県教育財団)

水戸城跡（第5地点・第6地点）現地説明会資料

2008年11月16日

編集 水戸市教育委員会

発行 財団法人茨城県教育財団・水戸市教育委員会

財団法人茨城県教育財団 〒310-0911 茨城県水戸市見和1-356-2

TEL 029-225-6587 / FAX 029-225-6573

水戸市教育委員会事務局 310-8610 茨城県水戸市中央1-4-1

EL 029-224-1111 (内線676) / FAX 029-228-3553
